

12年度に事業終了

4テーマとも

「妥当」と判断

県工技評価委

徳島県立工業技術センターの試験研究評価委員会が11日開かれ、2012年度に終了した4テーマについて外部有識者が審議した結果、すべて妥当と認められた。

評価の対象となったのは▽ICP発光分光分析を使用した高マトリックス溶液最適測定条件の検討▽ファンによる強制空冷を利用した大型LED照明の研究▽LED照明用ワイド入力電源の開発▽LED・リチウムイオン電池活用製品の実証試験の4テーマ。担当者が、成果や実用化に向けた取り組みを発表した。

織田聡・徳島大学産学官連携推進部副部长ら、県内の大学や企業関係者ら9委員が出席。研究成果の達成度、新規性や実用化の見込み、県産業への波及効果などの点から、5段階で評価した結果、いずれも3・3〜4・1と標準点3を上回った。

(山川幸)